

## 牛群検定通信 No159

### ～ 梅雨明け対策 ～

梅雨が明けると猛烈な暑さがやってきます。暑熱の影響を受けると飼料の摂取量が低下することにより乳量は当然低下しますが、乳成分も低下します。無脂固形分率やMUNが低下している場合は乳量に対して飼料摂取量が不足していることを示していて、併せて乳蛋白質が低下している場合は摂取蛋白質やエネルギーが低下していることを示しています。乳量とMUNが同時に低下している牛は暑熱の影響を受けているといえ、注意が必要です。

また、暑熱期の乳脂率の低下は粗飼料の不足というよりは、エネルギーの不足により起こります。これは乳成分の組成と関係しており、飼料摂取不足からくるエネルギー不足が原因と考えられています。詳しくは<家畜改良事業団ホームページの「牛群検定情報の活用（乳成分編）」>という動画を参照してください。

牛群検定成績表では検定日の気象情報を記載しており、あなたの住所の最も近いアメダスの平均気温、最高気温、最低気温などが分かるようになっています（牛群検定気象情報カウダス）。これらのデータを活用して暑熱対策を行ってください。

乳牛が夏に飼料摂取量が低下する原因は暑熱の暑さですが、具体的には暑熱のストレスにより、カルシウムの吸収率が低下し、カルシウム不足になることで飼料摂取量が低下します。ですから、夏場はカルシウムの給与量を増やさなければなりません。カルシウムは1度に大量に与えても吸収量は増えませんので、分離給与の場合はカルシウムの給与回数を増やす必要があります。TMR給与の場合はカルシウム量を通常より2, 3割増やす必要があります。勿論、このような飼料給与対策と共に24時間送風などの暑熱対策をしっかりと行わなければなりませんし、観察をいつもより密に行い、少しでも調子を落とした牛に対して早め早めの対処が必要となってきます。

また、夏の重曹給与の増加も必要です。ルーメンでは唾液から分泌される重曹を再吸収する働きがありますが、大量に飲水するような状況では、重曹の吸収が間に合わず、牛の体内での重曹が不足しますので、夏場は重曹の給与を通常より多くしないといけません。更に、人間もそうですが牛も夏場は塩分の補給が重要で、塩の供給量を増やさなければなりません。重曹のことも考え合わせると、重曹入りの鉱塩などを自由採食させることが重要になります。

一方、カビを牛が摂取すると、調子が悪くなることはよく知られていますが梅雨時期や夏にはカビが発生しやすく、飼料タンクにカビが発生していないかすぐにでも確認する必要があります。また、飼料倉庫の粗飼料にもカビが発生している可能性もありますので臭いやほこりの状況を確認しなければなりません。更に、飼料会社の倉庫でカビが発生している可能性もありますので、持ってきた飼料の確認も必要です。一方、自給飼料を栽培されている方は長雨により刈り取り時期が大幅に遅れたり倒伏したりして、これもまたカビが発生する可能性が高くなっている場合がありますので気を付けてください。カビを発見した場合、もったいないと思わず、思い切って廃棄することが大切です。

また、カビ毒吸着剤を添加したり、増量したりして、少しでもカビ毒の影響を少なくする必要があります。

(渡邊)